

2020年1月号
Vol. 38

発行／公益財団法人千葉県文化振興財団 文化振興グループ
〒260-8661 千葉市中央区市場町11番2号
TEL 043-222-0077 FAX 043-221-6438
E-Mail kikaku@cbs.or.jp

HPからも
アクセス
できます!!
Facebook
(公財)千葉県文化振興財団 公式ページ
<http://www.cbs.or.jp/>

文化人に聞く ～ダンサー・振付家 近藤 良平～

一昨年のコンドルズ日本縦断大起動ツアーに引き続き、今年1月に開催の埼玉県発の障がい者ダンスチーム「ハンドルズ」の千葉公演で一緒に、ダンサー・振付家として活躍中の近藤良平さんにお話を伺いました。

ダンスの魅力は何ですか？

ダンスにもいろいろなダンスがある、社交ダンスや、「恋ダンス」みたいなダンスと、括りがいっぱいあって、これらすべてを指してダンス。種類がいっぱいあるのがダンスの魅力かな。

本当に色々なダンスがあって、世界のダンスって見たときにアフリカで行われているダンスや、この村・この土地で行われているダンスとかその地域を代表していることもある。ダンスは住んでいる場所にも関わっていて、自分のエリアを主張するみたいな・・・そういった面もある。

近藤さんにとってダンスとは

ダンスは1人でやっても楽しくない！人によるかもしれないけど・・・(笑)。僕にはダンスを1人でやって発想はなく、みんなで見たり自分でも踊ってみたり、お互いに行ったり来たりするところにダンスがある。それが反応し合って結果的に楽しい。一方的に先生がいて教えていくっていうのとはちょっと違う。コミュニケーションだよ！？楽しい音楽をかけて、みんな動いているじゃん、みたいに咄嗟に出てくるのがダンス。決まった動きじゃない。こうしなきゃいけないなど決まり事はないんだよね。

だからダンスがいろんな年代にとってもっと身近になっていただければと思います。

ハンドルズの魅力について

まず、僕もそうだけど普通の人でも出会いの最初は動揺、緊張、言いたいことが言えないみたいな感じがあるけど、障がいを持っている方も同じで引っ込み思案だったり、すごく大きさにしたりと、僕たちとあまり変わらないんだよね。

ハンドルズに関して言えば、みんなどこか根の部分に明るいものを持っているんですよ！明るいものを持っているってすごいことで、羨ましいと思うくらい！僕が言わなくても、自然と明るくなるんです。そういう気持ちがあるから全体性って言った時に必ず良い方向に行くんです。そこが面白いなあって思うしハンドルズの魅力かな。

また、彼らの動きには僕たちの知らない丁寧さがある気がするんです。結成してもう10年になりますが、最初は手が全然上がらなかった人が何年もかけて少しずつ動くようになったこともしましたし、ものの捉え方に別の角度を与えてくれるというか、今でも思いもよらぬ発見をさせてくれるのも魅力ですね。

ハンドルズ千葉公演の見どころについて

埼玉のチームなんで千葉の波に乗りに行くじゃないですけど・・・千葉ってハンドルズのメンバーにとっては近いようで遠い、地図上では近いけど・・・、全然そうじゃない！今回は全員じゃなくて8人のメンバーだけど、みんな結構意気込んで行くんじゃないかな！隣の国に乗り込んでやるぞ！みたいな感じで・・・！そういうのって面白いなあって思って・・・雄姿じゃないけど、そういう部分をみんなで共有できればいいなあって思います。

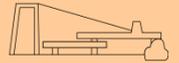
近藤良平・コンドルズ×障がい者ダンスチームハンドルズ 千葉スペシャル公演

波に乗り ゆらりゆらりと どこ行くの

ハンドルズのメンバーが、千葉の波をもとめてやってくる！

令和2年1月26日(日)15時開演 千葉県文化会館小ホール
全席自由：2,000円 障がい者および介助者：1,000円





11月9日(土)、いのはな山秋祭りにて千葉県文化会館美術品散策ツアーを開催しました。

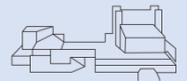
いのはな亭、千葉市立郷土博物館と協力して行われ、約40分ほどの行程で、千葉県文化会館内外の彫刻や歌碑、絵画などの作品をご鑑賞いただきました。

普段、なにげなく通り過ぎてしまいがちですが、日本を代表する彫刻家の手による作品や、千葉県の美術界の発展に大きく寄与された方の作品など、価値の高い作品ばかりです。そのひとつ、荻原守衛の「女」という作品は、近代彫刻史上、最高傑作とも言われていて、原型となる石膏像は明治以降の彫刻として初めて重要文化財に指定されました。

また、作品の中には、実は悲しき恋の由縁を持っているものもあり、作品を解説する中で、「そうなんだ!」と思わずリアクションをとられた参加者の方もいらっしゃいました。

ツアーの最後には、公共建築百選にも選ばれた千葉県文化会館についての解説も行い、参加者の方々には、美術作品のほかに、建築物の魅力にもふれていただきました。

千葉県文化会館の周辺には17点の作品があり、会館の受付にてアートマップも配布しておりますので、ご興味のある方は鑑賞されてみてはいかがでしょうか。



2020年は、オリンピックイヤーで、ベートーベン生誕250年でもあります。この記念すべき年の幕開けに千葉県東総文化会館では、令和元年度県民芸術劇場公演20回記念「東総の第九2020」演奏会を開催いたします。

平成5年から始まった「東総の第九」も今回で20回目を迎えます。第1回より、いく度も合唱指導を務めていただいた井辻紀一先生からは、「東総地域に文化会館が建設されたことを記念し、地域文化の振興を図るため、地域の総力を挙げて企画されたものであり、その場に指導者として立ち会えたことは幸せでした。何事も初めて行うことは思わぬ困難が伴うもの。第九に携わった全ての関係者、合唱参加者の真摯な姿勢と情熱は忘れることができない。」とコメントをいただきました。

これまで合唱団には、総延人数3,352人の方々に参加。総観客数は、15,298人。実に多くの方々を支えられながら実施してまいりました。2016年からは、地元の「あさひ少年少女合唱団」の子ども達も参加し、地域や世代を超えた文化交流が図られています。

アニバーサリーとなる今回、指揮を山下一史氏、管弦楽を千葉交響楽団にお願いし、オーディションにより選出されたソリストと合唱団が織りなす「歓喜の歌」の熱唱は、東総地域の空へ高らかに響き渡ると思います。



千葉県少年少女オーケストラは、1年間の集大成としての定期演奏会を3月29日(日)に千葉県文化会館大ホールで開催します。

今回の定期演奏会は「ラフマニノフ」「プロコフィエフ」「ベートーベン」の大曲に挑戦するため、日々の練習も色々と苦労しています。

そこで今回は団員を指導していただいている技術指導の先生から現在の指導状況について伺いました。

「ラフマニノフが決定した時は、今回の定期演奏会は大変だと言われていましたが、団員には難しさを意識させずに曲の本質を大切に指導しています。子どもっぽさは

この曲に合わないかもしれませんが、若々しさは大切に、硬くならないように普段から意識して指導しています。プロコフィエフについては、ソリストと合わせる時に、指揮者の指示が受け入れやすいよう曲のテンポ感などを固定せず練習しています。直前までソリストと合わせる事が出来ないのが不安な面も多いのですが、ソリストの藤田さんと団員達は年齢が近いので相乗効果で若者たちの力強さを発揮できるのではないかと楽しみにしています。ベートーベンについては佐治音楽監督の得意とする作曲家なので、音のスタイル、音色、ハーモニーのデリケートさを丁寧に説明しながら伝えています。」

本番まで残り少ない日々を大切に、良い演奏ができるように練習に励んでいきます。

編集後記

いよいよオリンピックイヤーを迎えました。来日される多くの外国人の方に、日本の「文化」と「おもてなし」をお届けしたいですね。